

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370504

研究課題名(和文) 在外ベトナム人の言語動態観察によるベトナム語の言語変容の記述と解明

研究課題名(英文) Vietnamese Language of Overseas Vietnamese

研究代表者

田原 洋樹 (TAHARA, Hiroki)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：60331138

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムは1986年のドイモイ政策開始以来、市場経済化が急速に進んできた。社会変化や経済発展がベトナム人の日常生活、とりわけ言語生活に与えた影響を調査研究することができ、あわせてベトナム語そのものの変容も観察することができた。

ベトナム国内外の研究者による観察や研究が変容の速度に追いつかず、実際にベトナム人がどのような言語生活を送って来たかについての情報がほとんどない中、本国および在外ベトナム人たちへのインタビューや参与観察により、その一片を記述することができた。なお、高齢化が進む在外ベトナム人社会の現状を考慮すると、とりわけ1975年以前のサイゴンにおける言語生活の記述は今後喫緊の課題だ。

研究成果の概要(英文)：Vietnam has rapidly advanced to market economy under the DoiMoi policy since 1986. This research showed the influences of social change and economic development on the daily life of Vietnamese people, especially language usage.

Through the research the transformation of Vietnamese itself became clear. Observations and research by linguists both inside and outside Vietnam can not catch up with the speed of transformation, so information on the Vietnamese language life is limited, but this project successfully employed interviews and participant observations to describe some significant realities.

Considering the current situation of aging in overseas Vietnamese, the description of language itself and daily usage of Vietnamese in Saigon before 1975 would be an urgent issue.

研究分野：言語学

キーワード：ベトナム語 在外ベトナム人 言語生活

### 1. 研究開始当初の背景

ベトナム社会主義共和国(以下、ベトナム)は、人口約8600万を擁するインドシナ半島最大の国家で、政府公認の民族数が54の多民族国家である。このうち、人口の約88%を占め、唯一の政党であるベトナム共産党と政府の実権を掌握しているのがベト族(狭義のベトナム人)である。民族の融和は国家存立の生命線であり、独立・建国の父であるホー・チ・ミンは生前に民族の融和と共生を強調し、独立宣言や憲法の中でも各民族の権利と義務の平等を謳っている。しかし、国民に権利と義務が平等にあっても、現実には経済発展が局地的に進み、貧富格差は広がる一方である。ベトナム政府はこうした現状に対して、民族政策、言語政策、言語教育政策を打ち出し、解決を図っている。また、統一前後にベトナムを出国した、いわゆるポートピープルを含む旧南ベトナム人についても、その帰国を容認し、さらに積極的な奨励へと政策転換がなされた。

ベトナム語学に関する研究はこの間に飛躍的な進展を遂げたが、実際にベトナムで人間がいかなる言語生活を営んできたか、社会システムの変化に合わせて言語がいかに変容してきたかという問題は取り残されてきた。もっとも顕著なのは、1975年以前のベトナム共和国(旧南ベトナム)における正書法に関する記述が、わずか40年前の出来事なのに、ほとんど入手できないことであり、語法や文法についても研究者の関心を集めていないことである。

他方で、旧北ベトナムおよびベトナム統一直後には大量の旧ソ連・東欧留学組エリートがベトナムの国家再建と運営に携わった。南部の共産化による統一を目指した旧北ベトナム、南北統一直後に急速な社会主義化を目指したベトナムでは、党・政府の要人や研究者を旧ソ連・東欧諸国に留学させる政策を採り、ソビエトモデルによる国造りを進めたからである。彼らは、国造りのノウハウのみならず、ロシア語もベトナムに持ち帰った。学生生活に関する語彙、社会システムについての語彙などがベトナム語に取り入れられた。しかし、当時は当然のように使用されたこうしたロシア語由来の語彙は、今日のベトナム社会でほとんど使用されない。

のみならず、ベトナム国内外で刊行されている国語辞典などをみても、見出し語にすら残存していない。本研究に先立ち、2009年から、ベトナム本国に残る旧南ベトナムの研究者、ホノルル在住の旧南ベトナム知識人にインタビューを実施した。また、語彙レベルの変容についても、基礎調査を行った。

これらは、本研究に重要な意味を持つ予備調査となった。本国のベトナム人は、好むと好まざるとベトナム社会主義共和国のベトナム語で生活している。しかし、在外ベトナム人には、彼らが出国当時に使用していたベトナム語が温存されている。ホノルルで発行

されているベトナム語メディアは旧南ベトナム正書法に依拠していたし、本国に残った親類とのやり取りも旧南ベトナムのベトナム語であった。旧南ベトナムのベトナム語は、本国外では顕在し、本国では現在60歳以上の人々の間に潜在していて、彼らは状況に応じて「今のベトナム語」「以前のベトナム語(旧南ベトナムのベトナム語)」を巧みに使い分けているのだ。つまり、今なら、ベトナム戦争前後のベトナム語が動的に観察可能であり、記述も間に合うのだ。

なお、予備調査では、正書法や語彙レベルの差のほかに、好まれる語順にも差異があることが認められた。孤立語であるベトナム語では、語順の差異は文法の差異に直結する。単に語彙リスト作成を以って研究成果とするのではなく、文法の変容までも丹念に調査し、記述することを目指した。

### 2. 研究の目的

ベトナム語史で語られることがほとんどなかった旧南ベトナムのベトナム語は、本国ではタブー視すらされていた研究分野であった。話者の生存期間中にこれを調査・解明し、記述しておくことは、ベトナム語の現代的な変容を明らかにし、その経過とともに保存することとほぼ同義である。また、南部のベトナム人に正書法上の誤りが頻繁に観察される理由を言語学的に説明することが可能となる。

また、南北統一、ドイモイ政策直前までの北ベトナムの言語動態を記述することで、南北統一の紐帯としてのベトナム語が内包する歴史経過が解明され、しかも語史が生き生きとした動的観察をともなって記述されることが本研究の到達点である。

### 3. 研究の方法

ベトナム国内外に残る、旧南ベトナム語の言語情報調査とそのデータに立脚した、徹底した実証的研究を行った。予備調査で観察された(1)正書法、(2)語彙レベル、(3)統語、さらに(4)音韻の差異を適格話者への聞き取り調査、先行研究の批判的洗い直しにより、言語動態を記述した。

また、旧南ベトナムおよび旧北ベトナムおよびドイモイ直前までのベトナム国内で発行された言語学研究書を再考し、現地調査の成果と照らし合わせて、音韻論、形態論、統語論から検証した「変容の全体像」を明らかにした。

主な研究手法は以下のとおりである。

- ・ベトナム社会主義共和国の言語政策・正書法の焼き直し
- ・旧南ベトナムの言語政策・正書法関連文献の収集
- ・在外ベトナム人の言語生活の観察
- 新聞、雑誌などの定期刊行物、ラジオ放送や亡命歌手のコンサートなどの音声情報に

表出する旧ベトナム語の観察と記述

・刊行物では、語彙および文内部構造の観察  
・音声情報では、音韻的特徴の重点的観察と、分析

#### 4. 研究成果

ベトナム国内外での調査を通じて、現在のベトナム語南部方言と、1975年まで存在したベトナム共和国で使われていたベトナム語との顕著な差異を指摘することができた。

##### (1) 音について

言語音については90年代初頭まで残っていた母音の異音、頭子音vの異音が都市部においてほぼ消滅していた。この変化を生かしているのが現在の音楽シーンで、消滅した言語音をあえて使用することで懐古的な雰囲気を出すことに成功している。カリフォルニア州のベトナム系住民には旧ベトナム共和国を今も強力に支持し、現在の体制に抵抗する人々を中心に、これらの音をかなり意識的に使用している人々がいる。自らのアイデンティティを示す上で重要な手段となっているのはもちろん、半世紀のベトナム語の変容を考察する時に興味深い事実である。

##### (2) 表記、正書法について

また、人名や地名の表記にも変化があった。これは正書法の変更によるものがほとんどであるが、現在のベトナム南部にも古い表記がごく一部で観察された。

たとえば、タン・ソン・ニャット国際空港の表記は、かつてはTân Sơn Nhứtであり、それは南北統一後もしくは慣用として残っていたが、今では完全にTân Sơn Nhấtである。また、日本はNhật Bảnという訛音が広く定着していたものの、現在ではNhật Bảnのみである。これらの旧音および表記をカリフォルニアやホノルルのベトナム人コミュニティにおいて広く観察することができた。カリフォルニアのベトナム人コミュニティにおけるエンターテインメントシーンを代表する歌手でMCのナム・ロック氏はコンサート会場で「今日は日本人の知人が来てくれた」と紹介するときこのNhứt Bảnという語を用いていた。単なる懐古主義ではなく、「ベトナム共和国のベトナム語を話し続けている」という主張に裏打ちされたものであった。

##### (3) 語彙について

語彙については、社会体制の変化による消滅や入れ替わりを具体的に収集し、論ずることができた。サイゴン「解放」後のベトナム語純化運動などの政策的な変化や、実質的な正書法の変更、またその流れに抗う在外ベトナム人の動きや言語生活を観察して、論文を発表することができた。

語彙研究の下地となったのが、いわゆる「黄色い音楽」と「赤い音楽」をめぐる問題である。ベトナムの歌謡曲が話題に上るとき、その楽曲がnhạc vàngなのかnhạc đỏなのかという区別がある。前者を直訳すれば「黄色い

音楽」であり、後者は「赤い音楽」である。ただし、ここでの黄色や赤とは色彩ではない。黄色い音楽とは主として旧南ベトナム時代に流行した楽曲であり、赤い音楽とはベトナム民主共和国、南ベトナム解放戦線、現在のベトナムで発表された楽曲を意味する。国旗を考えると、黄色と赤色の区別はなるほど言い得て妙である。果たしてこの2色の区別は音楽にとどまるのだろうか、という問題意識を持ち、聞き取り調査を数次にわたり実施した。

結果として、「黄色い語」とは、(イ)旧南ベトナムで使用され、現在のベトナムでは使用が禁止あるいは躊躇されている語や表現、(ロ)ベトナム南部の農村部や高齢者に引き続き使用されている語および表現、だまとめることができた。なお、(ロ)は日常会話で見られるのみで、公式の場面で使用されることはほとんどなかった。他方で「赤い語」とは、(イ)ももとは旧北ベトナムで使用されていた語や表現、(ロ)共産党、共産主義を惹起させるような語と表現、と位置付けることができた。さらに、(ハ)元来の意味や用法から離れて特別の意味を帯びて使用される語、すなわち「赤い語法」もここに含まれる。

##### (4) 話法について

ベトナム語の変容を全貌し、記述する際に気を付けておかなければならないのは、旧南ベトナムの国民には南部以外の出身者も含まれていることである。1954年、ジュネーブ協定でベトナムが南北に分断された際に、100万人以上の北部住民が南部に逃れていった。彼らは北部方言話者である。したがって、北部方言そのものを「赤い語」「赤い語法」「赤い話法」とするのは不適切だし、旧南ベトナムのベトナム語と現在のベトナム語南部方言を同一視することは避けるべきである。

さらに、インフォーマントとの日常的な交流で、1975年以前に好まれた語法や、望ましいとされた話法を記述することができた。これには、統一後、とりわけ直後の急速な社会主義化の時代には、退廃的、反革命的と指弾された表現も含まれる。そして、在外ベトナム人コミュニティにおいては、これらを意図的に使い続けること自体が自己表現であることにも注目した。「黄色い話法」および「赤い話法」という用語を与えて、対照研究を行って記述した。

現代ベトナム語のコミュニケーションにおける「望ましい話法」については、今後一層の研究を進めなければならない。これは、言論の自由、不自由という問題に起因する、社会主義圏独特の話法にかかわる、きわめて機微なテーマである。支配政党のスローガン、公式スピーチや文書に溢れる「赤い話法」は、もちろんその時々言語生活に直接影響を与える。自己の感情をどう表現するのか、他人に依頼するときにはどうするのかなどは、

ベトナム語自身の変質とは別に、ベトナム人の日常生活のグローバル化、畢竟英語化とも密接な関係があるろう。このような話法の変化を通時的に振り返り、記述することも重要であり、今後の課題としたい。

#### (5) 母語教育について

自分を日本人研究者という枠組みに押しこめている限り、どうしても「外国語としてのベトナム語」に集中してしまいがちだが、ベトナム本国の視点、あるいは国外に居住するベトナム系住民の視点では「在外ベトナム人子女に対するベトナム語教育」があり、しかもこちらの方が喫緊の問題である、ということだ。

前述したように、在外ベトナム系住民、とりわけカリフォルニアやホノルルで出会ったベトナム系住民にとって、自分たちの言語はベトナム社会主義共和国の南部方言ではなく、ベトナム共和国の国語であり、それを今でも使っているのだ、という意識が根強い。現代史から消えてしまった国家であるベトナム共和国の「遺物」は言語だけではなく、国歌や国旗などさまざまである。YouTube などでは現在も「黄色地に赤線3本」の南ベトナムの『国旗』を掲げ、『国歌』を生き生きと『斉唱』するベトナム系住民の姿を見ることが出来る。しかし、脱出者の入国が認められにくかった時代と異なり、子供や孫、すなわち第2世代や第3世代では一時帰国や本国からの親族来訪が盛んになってきた。この世代はベトナム本国で使われているベトナム語と、自分たちが家庭やベトナム系住民コミュニティで話しているベトナム語の差異に気づいていることが分かった。

母語教育問題には本国政府も注意を払っていて、既に在外ベトナム人子女向けのベトナム語教材シリーズが開発された。教育訓練省が大掛かりな編纂チームを仕立てて完成させた教材シリーズがそれで、他方でオーストラリアに長く住んでいるベトナム人言語学者のチームが開発した教材も主としてオーストラリア国内の学校や学習組織で使用されていて、研究分担者のチャン・ティ・ミン・ヨイはこの教材の校閲を続けてきた。

#### (6) 調査地へのフィードバック

この研究を遂行する際に、調査地への研究成果還元を常に心がけた。カリフォルニア州内のテレビでトーク番組に出演して、研究の様子や意義、成果についてインフォーマントを含む社会全般に広く発信することができた。テレビ番組を視聴した住民から面会申し込みがあり、また別のメディアから取材を受けることもあり、発信は成功したものと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

1. 田原洋樹「ベトナム語におけるフランス語のレガシイ」『APU言語研究論叢』第2巻。p10-17。2017年3月。査読なし。

2. 田原洋樹「ベトナム語における『黄色い語』と『赤い語』に関する考察」『APU言語研究論叢』第1巻。p62-70。2016年7月。査読なし。

3. 田原洋樹「外国語としてのベトナム語概観」『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 - 中間報告書(2012-2013) -』、平成24-26年度科学研究費助成事業(基盤研究B)報告書(研究代表者:富盛伸夫・東京外国語大学名誉教授)73頁~81頁、2014年。査読なし。

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 2件)

1. 田原洋樹、グエン・ヴァン・フエ、チャン・ティ・ミン・ヨイ『パスポート初級ベトナム語辞典』白水社。2017年6月。

2. 田原洋樹『ベトナム語のしくみ(新版)』白水社、146頁、2014年3月。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

テレビ出演

1. TAHARA Hiroki, Little Saigon và gia đình tôi The Talkshow(30分の対談番組), Saigon TV, 2016年7月4, 8日午後3時から。

2. TAHARA Hiroki, Tiếng Việt và người nước ngoài, The Talkshow(30分の対談番組), Saigon TV, 2015年11月26, 27日。午後3時から。

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

田原洋樹(TAHARA, Hiroki)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学  
部・准教授

研究者番号：60331138

(2)研究分担者

チャン・ティ・ミン・ヨイ (TRAN, Thi Minh  
Gioi)

立命館アジア太平洋大学・言語教育センタ  
ー・講師

研究者番号：80646125

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )